

日本人会、グアムの思い出ありがとう！

私は3年前にグアムに移動してきました。主人の仕事の関係上、アメリカと日本を行ったり来たりする転勤生活を繰り返しています。のんびりとした南国生活をイメージしていましたが、思いがけず日本人会の理事に携わることで、



私のグアム生活は一番思い出の詰まったものになりました。

まず新しい土地に着くと友達探しはとても大切です。私は日本やアメリカでスクラップブックのクラスを開いて、グアムでの普及活動を含め、クラフト好きな仲間を捜すべく、事務局の方々と色々なお話をさせてもらいました。すると唐突に事務局の方から広報誌ラッテの「今月の顔」のインタビューを申し込まれたのです。本当にビックリしましたがクラスの宣伝にも繋がると思い、無謀にもお受けしました。それを皮切りに編集部員に加えて頂き（文章を書くことは得意ではないのですが）、アートショーやクラフトフェアに参加させて頂くなど、日本人会の行事に関わって行くようになりました。

2年目に理事への推薦のお話しを受け、悩みましたが、残り1年のグアム生活にこれも良い経験かと思い「1年でも良ければ」という条件で理事の仕事をお受けすることにしました。しかし理事の仕事は予想に反しとても大変でした。特に文化部は女子会が始まるとほぼ毎月のように行事があり、その中でも10月は最も忙しく、文化部主催のハロウィンパーティー、走り出したばかりの女子会に加え、4年に1度開催されるFAWAの国際大会が今年はグアムで行われたため、3つのイベントを同時に遂行しなければならないプレッシャーで、「これは最後まで勤まるかな？」と何度も弱気になったものです。

それでもFAWA大会が始まるとアジア各国の女性団体、日本からも多くの参加者が詰めかけ、その熱気に吞まれながら、グアムの女性団体と交流を深め、力を合わせながら準備も含め約1週間、無事に大会をやり遂げることができました。大会を終えたことの達成感もさることながら、この大会からは女性の自立、教育の大切さなど、考えさせられることがたくさんあり、大変勉強になりました。そして彼女達からもたくさんのパワーをもらい、モチベーションを高められ、各国の女性が一丸となり問題解決に取り組む女性活動に関心が湧いてきました。

文化部のお仕事では女子会を任せられ、毎月レストランの皆さまの寛大なご協力の基に、楽しい会を開かせて頂き、女子会を通してたくさんの出会いや繋がりを作ることができました。

最後の女子会は、総領事の公邸で開かせて頂き、20名の方に参加して頂きました。公邸の黒川シェフが、グアムの特産の野菜やフルーツを使った豪華なお料理をご用意くださり、総領事自らシャンパンを注いでくださるなど、公邸に訪問する機会などめったに無く、とても楽しい贅沢な時間を総領事と過ごさせて頂いたことも良い思い出のひとつです。出会いは楽しいだけではなく、悲しいものもありました。グアムはおおらかで普段は安全な場所ですが、今年2月には観光客殺傷事件という痛ましい事件が起こりました。メモリアルホスピタルに通訳のボランティアが必要というメールを受け、とにもかくにも駆けつけました。被害に遭われた方々が悲嘆を痛切に感じるなか、本当にたくさんの日本人の方が徹夜で病院に詰めて、現地の方も含め「何も出来ないけれど、寄り添うことで少しでもお役に立てることがあれば」という、温かい思いやりの気持ち、何よりも人の繋がりの大切さ、日本人の絆の尊さを実感させられました。

思い起こせば、どれもこれも貴重な体験でいっぱいです。私は理事を退任してシンデレラの靴は脱ぎましたが、この1年、理事の仕事を通して本当に人間的に成長させて頂きました。「人に会う機会は絶対に逃してはならない」を信じて突っ走ってきましたが、確かに面倒で、嫌なこともあります。でもそれ以上に、それだからこそ、やり遂げた後の思い出や充実感は格別だと今は感じています。何より、人との繋がりは財産です。日本人会の行事を通して沢山の方々と会うことが出来ました。もっとたくさんの人に日本人会の行事に参加して頂けたらと思います。

最後に、寛大に受け入れてくださり本当にありがとうございました。皆さまの素敵な笑顔を抱いて、次の土地でも新しいことに挑戦していきます！

好きな言葉、「自分の歩んだ道に花の咲いた小道を残してゆこう」。日本人会の行事で私が関わったイベントのスクラップブックを作成しました。そこにはたくさんの笑顔が詰まっています。事務局の方に残して行きますので、ぜひご覧ください。

日本人会の更なる発展をお祈りいたします。

ポール香代子



事務局ライブラリー便り



◎「オレたちバブル入行組」・「オレたち花のバブル組」
池井戸 潤 著

巷で大ブームを起こしているドラマ「半沢直樹」の原作本、「・・・やられたらやり返す。泣き寝入りはしない。十倍返しだ。・・・」（本文より）圧力に屈することなく逆境に立ち向かっていく半沢の姿は、世間で働く様々な人々に元気を与えます。ドラマをご覧になった方もご覧にならなかった方も、ぜひご一読下さい。



新社屋への移転完了



P. O. Box 2980
Hagatna, Guam 96932
Tel: (671) 477-9754
FAX: (671) 477-2315

新社屋への移転を記念してスペシャル・キャンペーンを実施中。お気軽にお立ち寄りください。